

見附市教育センターだより



〒954-0052

見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和5年1月20日 NO.10

新春の朝陽を浴びる

小賞 「外山家庭園」

なぜ定期テストをするのか

見附市中学校校長会 会長 多田 茂



見附中学校では、定期テストが年4回行われます。生徒は3週間程度前からテスト計画を作成し、家庭学習に力を入れます。学年によっては、学習時間を集計し、班やクラスの合計時間を廊下に掲示します。学習時間の長さが伝統的に重視されています。教員も定期テスト前になると、テスト作成に追われます。2学年分のテストづくりとなると、かなり大変です。

なぜそんな大変な定期テストを年4回も行うのでしょうか。1つの答えは「生徒に勉強させるため」かもしれません。しかし、テストのために勉強することが目的になってしまうと、本来の「学び」の在り方から遠ざかり、特に苦手な生徒には「勉強は時間がかかり苦痛なものだ」という思いを抱かせることにつながる恐れもあります。「生徒の評価を出すため」という答えも出てきそうです。評価を出すのであれば、生徒の資質・能力（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」）を測るものである必要があります。

でも、本音は「授業でやったことをきちんと覚えているか確認するため」「ちゃんとワークを勉強したか確かめるため」かもしれません。それだと「測ろうとしている能力をテストが安定して測っているか」という「妥当性」や「信頼性」が大幅に損なわれてしまう恐れがあります。テストで測っているのは「授業で教えたこと」「ワークを使って覚えたこと」であって、生徒が身に付けた資質・能力ではないということもあります。

テストは、「本来身に付けさせようとしていた資質・能力」が評価できるものでなければなりません。授業でねらっていることが、「資質・能力」だからです。単元を構想する際には、単元のゴールとして身に付けさせたい資質・能力を明確にします。ルーブリックで生徒と共有している例も多く見られるようになってきました。

評価で大切なのは、その資質・能力が身に付いたかどうかを測ることであり、そのためには、単元構想段階で、それを評価する問題を作っておく必要があります。その上で、その問題を全員がクリアできるように生徒と一緒に授業を作っていくことにより、学習と指導と評価の一体化が、よりリアルなものになるのではと考えています。

巻頭写真に寄せて =外山修造は青鬢館(井上五蔵)に学んだ=

◇昨年、新潟日報で、幕末から明治期に活躍した長岡人(河井継之助等6名)をシリーズ『未来を切り開いた長岡人の心』で取り上げ、12月最終回(総集編)は、読者からの意見・感想と投稿者二人の話が載った。その一人が見附市在住の新潟大学附属長岡中1年依田 樹君で、彼は小学4年から6年までの自由研究の課題に「河井継之助」を調べ続けた。凄い研究で、継之助が教えを受けた山田方谷を調べに、方谷の地元、岡山県まで調べに行ったり「継之助と渋沢栄一の違い」をテーマにして調べたりして、『継之助は最後まで平和を望み、長岡のために尽くした人』と語っていた。記事を読み「見附に立派な子どもがいるぞ。」と嬉しくなった。◇さて、この総集編に6人の人物相関図が乗っていて、河井継之助に向かって**外山修造**から「敬愛し薫陶を受ける」の言葉で矢印が伸び、修造に並び**長谷川泰**が**幼なじみ**の言葉で繋がれていた。外山修造(栃尾郷小貫村)は、アサヒビールや大阪ガス・阪神電鉄の創設に貢献する等、関西経済界の重鎮であった。長谷川泰(長岡藩領福井村)は、日本で最初の男女共学の医学校である、済生学舎(現在の日本医科大学)を創立した人である。2人は同じ年(1842年生まれ)で、「**井上五蔵**」の碑幕末期、耳取村の庄屋；**井上五蔵**が漢学を教えた「**青鬢館**(せいりょうかん)」で学んだ。青鬢館のあった場所に「井上五蔵の碑」が立っているので見て欲しい。また、「**みつけ塾『つなぐ』**」にも目を通して欲しい。巻頭写真「外山家庭園」は、修造が晩年に京都の庭師をよんで作った『池泉廻遊庭園』である。庭池に巨石を以って護岸の石垣が保存をされ、池畔や築山に赤松や紅楓が植えられて誠に美しいそうだ。この時期は遠くから眺めるだけであるが、新緑の時期に訪ねてみたい。昭和の大合併で小貫は栃尾へ編入したが、明治期からそれまでは、上北谷村に入っていたと、一昨年「4時から夢塾」で、川崎英郎先生(当時；上北谷小学校校長)から教えて頂いた。私は青鬢館で学び、生きた時代は上北谷村だった外山修造を「見附人」とみたい。



外山家の全景



コラム = 流行に流されない 正しい言葉の発信も大切 =

◇昨年末、サッカー・ワールドカップ(W杯)での日本代表監督や選手たちから発せられた「新しい景色」や「ブラボー」の言葉が話題を呼んだ。「ブラボー」は強豪ドイツに勝利した以降、長友選手が繰り返して広まった。また「新しい景色」は、大会期間中、森保監督や選手たちがインタビューに答える際、ベスト8の目標を「新しい景色」と言い表していた。強豪国ドイツ、スペインを破ったのだから、「ブラボー！(すばらしいぞ)」の叫び声や、大接戦の末、目標の「新しい景色」は逃したが、格上国を連破したのだから、大きな感動で「新しい景色」を十分に見せてもらった。コロナ感染症の収束が見えず、ロシアによるウクライナ侵攻が続き、光熱費や食料品等が次々と値上がりをする中、サッカーファンのみならず、国民の誰もが快挙に対して、同じ言葉を発したい気分になったのもうなずける。

◇さて、「新しい景色」は4年前、日本サッカー協会が決定した応援スローガン『新しい景色を2022』からきているそうだが、日々の生活の中に「新しい景色」が広がっているように感じる。これは悪いことではない。この言葉で元気がもらえるように思うが、今までなかったこと、違う出来事等に対して、「新しい景色」の一言で済ませてしまってもよいのだろうかとも思う。

◇「推し」という言葉にも同じ思いを持つ。タレントやグループで結成する歌手の中で、一番好きな人を「推し」と呼ぶが、現在は何でも「推し〇〇」で済ましてしまっていないだろうか。昨年度、授業(外国語)で「推しを紹介しよう」の学習を参観した。できることを友だちと教え合う内容であったが、「できること=推し」でやられていた。若い教師にも子どもたちにも違和感はないのだろうか、私には「できること」の方がすっきりと感じた。短い言葉が若者だけでなく流行になっているが、授業では「正しい言葉で伝え合うこと」が、大切だと考える。(こ)

4時から夢塾 「学校って 楽しいところ！」

第14回は、1月17日(火)に、南中学校の深澤正英校長先生から、「教師って やっぱあ いいよね！」を演題に指導を頂いた。

概要は、深澤先生が中学校・高校・大学で、教師や仲間、ラグビーを通して、多くの学びを得て、教員になり、その学びを実践してきたことを『学び20』として、実に分かり易く教えて頂いた。



深澤正英 先生

【学び1】心に響く・「そうか そうか」「まあ分かった」等、話を聴いてくれる先生がいた。

【学び2】心を開く・自分の事を見てくれている。見抜いている。認めてくれたと感じた時。

【学び3】「褒めて育てる」より「認められて育つ」・自尊感情や自己有用感を持たせる。

【学び4】魅力ある学校とは・①間違えて良い。やり直して良い。挑戦できる。②仲間がいる。③泣き笑いできる。④変わることができる学校。

【学び5】自分自身が興味をもったことは苦にならない・個別最適な学び。

【学び6】「学ぶこと」と「導くこと」・学習者は、学ぶことは楽しい。

指導者は、教え過ぎてはいけない。生徒の心に火をつける。INとOUTが大事である。

【学び7】良い所を指摘されると心の支えになる・タックルを褒められた→今も覚えている。

【学び8】できないことの原因分析は自分に向ける・人のせいにならない。

【学び9】自分ではなく仲間に尽くす FOR THE TEAM・苦しい時に本当の姿。

【学び10】なりふり構わず頑張る姿は、人を動かす原動力になる。

【学び11】苦しい時こそ成長する・本気で取り組み結果を待つ。

【学び12】多様性を尊重する・自分の特長を生かす。人との違いは自分の強みである。

【学び13】仲間をリスペクトする・自分と違う資質や能力 頑張りやプレー。

【学び14】自分で考えて行動する・キャプテンシーは誰よりも深く考える。

【学び15】大切なのはチームの一体感・喜び、悔しさ、苦悩の共有。

【学び16】とにかく生徒と関わる・話しかける 興味をもってあげる。

【学び17】生徒を一人の人間として敬意をもち誠実に接する・生徒は幼いけれど感性は鋭い。

【学び18】一緒に汗をかいてナンゴ・苦しい、痛い、悲しいを分かち合う。正面から話をする。

【学び19】ありのままの自分を生かす喜び・卒業式→感謝の気持ちを伝えられるのはここだ。

【学び20】学校外の時間も大切に・花となるより根になろう→見えないところで支えよう。

<まとめ>…「教師であることに誇りを持ち、何度跳ね返されても立ち向かい、学校は子どもも大人も元気になれる場所、一緒に成長できる場所にしましょう。」と、まとめられた。



- <参加者の声>** ・教師の本質や人として大切な事、生きていく上で大切な事を教えて頂いた。
- ・様々な事件が起きても立ち直りの道を示し、生徒と共に進んでこられたことに感動をした。
 - ・教師の仕事は人を育てること。その成果はすぐ見えるものではないが、後になって大きな幸せが返ってくることがある。教師の醍醐味、深澤先生の人的魅力をととても感じた時間だった。
 - ・校長講話(学級経営等の経験談を聞けること)は素晴らしい。人生観の広がりにつながると思う。

1月



科学教育部



《今月の1枚》

見附市街地と米山(見附中より撮影)

【ズィーティーエフ彗星】



ズィーティーエフ (ZTF) 彗星は 2022 年3月に発見された彗星で、2023 年1月 13日に、太陽に最も接近しました。この時の太陽からの距離は約 1.1 天文単位でありあまり近くないため、明るさは6等くらいにしかならないと予想されています。しかし、その後、地球に接近し明るさを増しています。2月2日には、地球に0.28天文単位まで接近します。ズィーティーエフ彗星は1997年に地球に最接近したハール・ボップ彗星に似て、塵の尾が目立つ彗星です。チリの尾は肉眼で見やすく、尾を引いた姿が、はっきりと見えるのではないかと期待されています。

ズィーティーエフ彗星は1月初めには、明け方の東の空で、ヘルクレス座とうしかい座の間で輝き、次第に北へ移動し、北極星付近に達したところで、最も地球に接近します。そのため、1月下旬から2月の初めごろは、一晩中夜空に輝きます。参考文献 星空年鑑2022 アストローツ

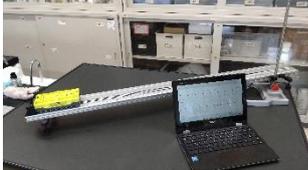
<https://starwalk.space/ja/news/comet-c2022e3-to-pass-earth>

新しい備品が使えるようになりました

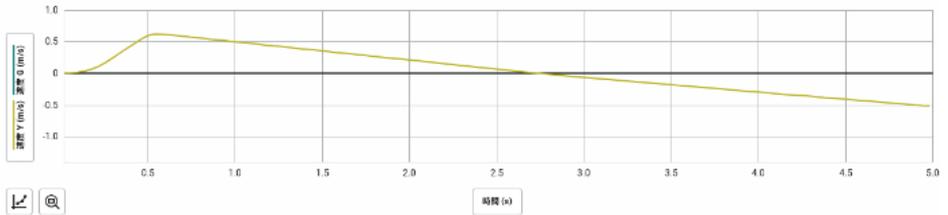
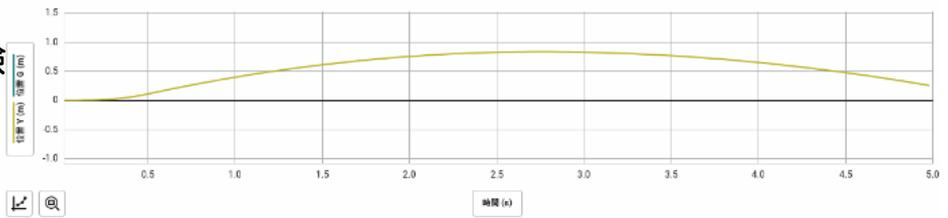
公益財団法人内田エネルギー科学振興財団の助成を受けて、「Go Direct 力学システム DTS-GDX」を購入しました。Chromebook と力学台車を Bluetooth で結び、無料の専用アプリを使用することにより、リアルタイムでデータの収集・グラフ化ができます。ぜひご利用ください。

(活用例)

① 斜面の往復運動の実験



右の図は、上段が位置と時間の関係を表し、下段が速度と時間の関係を表します。



② 作用・反作用の実験



右の図は速度と時間の関係をあらわします。

